

令和5年度 1学期終業式あいさつ

皆さん、おはようございます。

今日で1学期が終わりますが、皆さんにとって1学期はどのような学期でしたか？

1年生の皆さんは、暁高入学という節目となった学期でしたが、忙しい毎日の中で暁高での生活を乐しめましたか？2年生の皆さんは、クラブや行事で暁高の中核としての役割を求められることが多かったと思いますが、リーダーとしての自覚は芽生えましたか？3年生の皆さんは、部活動や暁高祭など、一つひとつの行事が高校生活最後になったわけですが、思い残すことなくやり切れましたか？

今日は1学期を少し振り返りながら、皆さんの大先輩にあたる人の話をしたいと思います。

1学期は、コロナ禍という長いトンネルを抜けて、ようやく取り戻した日常の中で、皆さんが授業や部活動、暁高祭などの行事に全力で頑張っている姿、楽しそうな笑顔をたくさん見ることができました。本当に良かったです。そして暁高祭では、外部からたくさんの方の来客を迎えて、1年生から3年生まで素晴らしいパフォーマンスを披露してくれました。「さすが暁高生」と、皆さんをとっても誇らしく思いました。特に大劇場本番やそれまでの練習、過程を通じて、76期生の団結力や成長を強く感じた暁高祭でした。皆さんの先輩が、「暁高祭で、みんなが主役というわけにはいかないけれど、折り合いをつけながら協力して、みんなでひとつのものを完成させていくという協調性があるところが暁高のすごいところ。学校全体に、みんなで協力して頑張ろうという雰囲気がある」と言っていた、暁高の伝統が脈々と受け継がれていることを強く感じました。

また、サッカー部が中心となって、5月中旬にあいさつ運動をしてくれました。期末テスト終了後は多くのクラブがサッカー部に賛同して、朝早くから正門や通用門、駐輪場、下足室のところで、あいさつ運動をしてくれました。誰かに強制されたわけでもなく、頼まれたわけでもなく、自主的に朝から大きな声で「おはようございます」とあいさつしてくれた皆さんの気持ちや姿勢が本当に素晴らしいなと思えました。「暁高生は爽やかなあいさつができるという伝統をしっかりと守っていくんだ」という暁高生としての矜持を感じました。皆さんも何かを感じてくれたと思います。これからも明るく元気なあいさつが飛び交う暁高を全員で大切にしていきましょう。

さて、今年度は本校創立120周年。皆さんの先輩には、様々な分野・業界でリーダーとして活躍されている方がたくさんいらっしゃいます。その中の一人にノンフィクション作家の後藤正治（ごとう まさはる）さんがいます。本校図書館の蔵書をほとんど読んだという伝説が残っている方です。

その後藤さんが、数年前、ある新聞の『わたしの母校』という企画で、ご自身の高校時代について語り、後輩に素晴らしいメッセージを送ってくださっています。原文の方が思いが伝わると思うので、原文の一部を紹介したいと思います。

「優等生でもなく悪さもしない、目立たない地味な生徒だった」淡々と高校生活を振り返る。部活動は水泳部。「大した選手ではなかった。女子部員にかわいい子がいて、彼女の姿を見るために入部したようなもの」と照れながら語る。…

勉強は嫌いだったが、読書は好きだった。学校図書館に毎日のように通い、ドストエフスキーや大江健三郎に親しんだ。「蔵書はほとんど読んだ」という。多感な10代に熱中した読書が現在の職業の下地を作ったのだろう。そんな中、影響を受ける一冊の本に出会う。伊谷純一郎氏『ゴリラとピグミーの森』。霊長類学者の著者が、アフリカ奥地の森で

同大陸最古の民族といわれるピグミー族と生活を共にした貴重な記録だ。…「いろいろなことに目を開いていくきっかけになった。原住民との生活が濃密に描かれ、記録して書くことを教えてくれた」。世界が広がる思いがした。

高校時代を「自分はどう生きていくか。自分探しの旅を始めた年ごろだった」と振り返る。今思えば何でもないことが、胸にトゲが刺さったように苦しいのが青春だ。…「青春は陰りを帯びた時代。『なぜ自分だけ』ともがくが、実は誰もが歩む普遍の道だ。自分自身に出会えるのは、回り道と経験を経たずっと後のこと。」…いつの時代も「青春の本質」に変わりはないと感じている。

新たな時代を生きる後輩たちに「いろいろなものを養分にして、あなた自身の人生を自由に生きてほしい」と言葉を贈った。

後藤さんがおっしゃっているように、高校時代は些細なことでも気になり、悩みながらもいろいろなことを吸収して、成長する時です。そして、明日から始まる夏休みは、特に皆さんが大きく成長できる時期です。「あの時の夏休みは、〇〇をめっちゃ頑張ったなあ。だから、今がある」と、5年後、10年後に高校時代を振り返った時に、しっかり思い出せる、そんな夏休みにしてください。〇〇に入るのは人それぞれ違うと思います。勉強でも、読書でも、クラブでも、友人でも何でもいいんです。きっとその〇〇が皆さんの養分となり、皆さんを大きく成長させてくれるはずです。3年生は受験本番で、大変な夏休みですが、特に受験期は「自分を管理する能力」、「目標を設定し、計画を立て、努力すること」がとても鍛えられて、大きく成長できる時期です。畷高には、「畷高の3年生はここから本番までめっちゃくちゃ伸びる、信じられないほど伸びる」という代々受け継がれてきた伝統があります。「高3の夏休みは、人生で一番勉強した」と胸を張れる夏休みにしてください。

それでは、2学期にさらに成長した皆さんに会えることを期待して、終業式のあいさつとします。

校長 稲葉 剛